

病床機能別の集計結果の概要

(単位:床)

構想区域	医療機能	令和5年 (2023年) (7月1日現在)	令和6年 (2024年) (7月1日現在)	※ 【参考】		【参考】	
		病床機能報告 (最大使用病床数)	病床機能報告 (最大使用病床数)	増減		地域医療構想 における 必要病床数	
		A	B	B-A		C	
中北	高度急性期	704	701	△ 3		403	
	急性期	1,771	1,791	20		1,353	
	回復期	690	697	7		1,227	
	慢性期	1,296	1,252	△ 44		1,161	
	計	4,461	4,441	△ 20		4,144	
峡東	高度急性期	0	0	0		48	
	急性期	498	530	32		279	
	回復期	872	793	△ 79		978	
	慢性期	341	419	78		419	
	計	1,711	1,742	31		1,724	
峡南	高度急性期	0	0	0		0	
	急性期	314	271	△ 43		78	
	回復期	0	0	0		102	
	慢性期	105	109	4		83	
	計	419	380	△ 39		263	
富士・東部	高度急性期	14	14	0		84	
	急性期	624	610	△ 14		318	
	回復期	188	188	0		259	
	慢性期	76	77	1		117	
	計	902	889	△ 13		778	
総計	高度急性期	718	715	△ 3		535	
	急性期	3,207	3,202	△ 5		2,028	
	回復期	1,750	1,678	△ 72		2,566	
	慢性期	1,818	1,857	39		1,780	
	計	7,493	7,452	△ 41		6,909	

➤ 医療機能を未選択の病床は含まず。

※ 時点の異なる病床機能報告の数値については、以下の点から、単純に比較すべき性質のものではないと考えられるため、「増減」は「参考」扱いとする。

- ・ 医療機能の区分の基準は定性的なものであり、あくまでも医療機関の自主的な判断によるものであること。